

日時：2026年2月3日（火）10時00分～11時30分  
場所：神戸市役所1号館14階 大会議室

○報告

(1) 令和6年度 神戸市における障害者虐待の状況および対応について（資料2）

→事務局より説明

【主な意見】

- ・ 家庭内の障害者虐待について、ネグレクトや経済的虐待の場合、虐待をしている認識がない場合もあると思う。また、虐待を受けている本人も認識がなかったり、嫌だと言えなかったりすると思う。事業所に通所していたら職員が気づいたりすると思うが、在宅や高齢、障害が重く受け入れ事業所がない場合、虐待が気づかれにくく発生しやすいと思う。そのようなリスクのある家庭には、優先的な訪問など、行政による見守りの仕組みが必要だと思う。
- ・ 養護者に向けた予防的な啓発も良いと思う。
- ・ 警察からの通報が多いとの話だが、やはり本人が通報するのは中々難しいのだろうと思う。
- ・ 強度行動障害のある方の家族は本人を抑えようとする行為がエスカレートしてしまうこともあると思う。住んでいる地域の近くで支援できるような環境の整備が必要だと思う。
- ・ 精神障害のある方の家族は本人から怒鳴られたり暴力に近いことを受けたりする。大変厳しい状況を我慢しているが、どうしても我慢できず怒鳴ってしまうということもある。養護者も辛さを抱えている。
- ・ 通報件数について、どこからの通報が増減しているのかといった情報はあまり意味がない。増減の背景にある事情の分析が大切で、今後の施策に関連する新たな気づきになると思う。

(2) 神戸市障がい者生活実態調査の速報について（資料3）

→事務局より説明

【主な意見】

- ・ メールでの回答数が減少している。以前の調査時よりもICTを活用する方が増えているのに、メールでの回答が減るのは疑問が残る。使い勝手の悪い手法になっていないか、次回以降の調査では考えていく必要があると思う。
- ・ 調査結果が次の計画に反映されるということで期待している。
- ・ 調査が非常に大切なものだという意義をもっと事前に宣伝・周知すべきだと思う。次回の調査では、より多くの方に返送いただけるよう、周知に取り組んでもらいたいと思う。
- ・ 発達障害の回答数が送付数に対して多いのは、こどものほとんどが精神保健福祉手帳ではなく療育手帳を取得しており、発達障害に丸を入れた方が多いからだと思う。
- ・ 調査項目の設定について分科会でも意見が出ていた。郵送による回答方法が中心であることを鑑みると回収率は高いと思うが、調査項目の答えやすさや課題など、モニタリングを行い把握したほうが良いと感じた。

### (3) バリアフリー基本構想の策定について（資料4）

→事務局より説明

#### 【主な意見】

- ・ 駅のバリアフリーについては、神戸市ばかりが負担するのではなく、鉄道事業者は何がネックになっているのか、必要なことは国に求めるのかも含めて検討してもらいたいと思う。
- ・ 鉄道駅バリアフリー料金制度を導入している鉄道事業者に対しては、年次計画を立てるよう、神戸市から言ってもいいのではないかと思う。
- ・ 駅のエレベーター設置の際には、車椅子と乳母車や手押し車を押す方が2名程度乗車可能な大きさを基準として設置することを考えてもらいたい。
- ・ 須磨エリアのバス路線の見直しでは、目的地への直行ではなく鉄道駅への接続が基本とされていた。バリアフリー化されていない駅もあり、車椅子の方は乗り換えが大変という意見を聞く。当事者の声を見直しに反映するよう、福祉局と交通局で連携していただきたい。
- ・ バスについて、時間に合わせた増便や路線を増やすことを考えてもらいたい。計画を立てるときには障害当事者、高齢者、乳母車を利用する方の意見を取り入れていてもらいたい。
- ・ 重点整備地区は整備してもらいたいと思っているが、障害者や高齢者は各地域に住んでいることを念頭に置いて構想を立ててほしい。
- ・ 駅や市役所などのバリアフリー化だけではなく、お店のバリアフリー化に対する支援にも取り組んでももらいたい。車いすの方などいろいろな方が利用できるトイレを市役所以外にも十分に作る必要があるのではないかと思う。

### (4) 終活支援事業の開始について（資料5）

→事務局より説明